

福光店では、現在 5 名の患者が「ノルスパンテープ」を使用しており、今までの NSAID に追加もしくは切り替えにより、患者と介護者の QOL が向上した症例を紹介する。また、無効症例 1 名と中止症例 1 名も併せて紹介する。

★経皮吸収型 持続性疼痛治療剤 「ブプレノルフィン」 劇薬・向精神薬・習慣性医薬品
ノルスパンテープ 5mg、10mg、20mg

適正使用について

ノルスパン(R)テープは、非オピオイド鎮痛剤で治療困難な、変形性関節症及び腰痛症に伴う慢性疼痛の鎮痛に適応されるオピオイド鎮痛剤であり、広範囲にわたりオピオイドが使用されることのリスク管理の観点から、下記の承認条件を遵守することを条件に承認されている。

承認条件：変形性関節症及び腰痛症に伴う慢性疼痛の診断、治療に精通した医師によってのみ処方・使用されるとともに、本剤のリスク等についても十分に管理・説明できる医師・医療機関・管理薬剤師のいる薬局のもとでのみ用いられ、それら**薬局においては調剤前に当該医師・医療機関を確認した上で調剤**がされるよう、製造販売にあたって必要な措置を講じること。

調剤前に確認事項：処方元医師の照会（医師による適正使用講習 e-learning の実施）
取り扱い医療機関の登録

【効能又は効果】

非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患に伴う慢性疼痛における鎮痛

- ・変形性関節症
- ・腰痛症

【用法及び用量】

通常、成人に対し、前胸部、上背部、上腕外部又は側胸部に貼付し、7 日毎に貼り替えて使用する。初回貼付用量はブプレノルフィンとして 5mg とし、その後の貼付用量は患者の症状に応じて適宜増減するが、20mg を超えないこと。

【注意点】

皮膚の刺激を避けるため、同じ場所に貼る場合は 3 週間以上空ける。貼付後 30 秒間手のひらで押える。

症例 1：腰痛症 90歳 女性

処方経緯：転倒後の腰椎圧迫骨折により「セレコックス錠100mg 2錠 朝夕食後」を服用していたが、痛みが強く起居動作に時間がかかるようになり介護量増加、「ノルspanテープ5mg」を追加。

効果：貼付した翌日から動きやすくなり、介助の手間が減った。
NSR 8→3に軽減。継続中。

副作用：貼付した日（13：00に貼付）の夕食から食欲が減退したため、「ドンペリドン10mg 3錠 毎食前」の処方を追加した。服用翌日には、食欲回復した。

症例 2：腰痛症 89歳 男性

処方経緯：急な痛みを訴えられ、寝返りや移乗が困難となった。整形外科に受診し、明らかな外的要因は見当たらないが腰椎圧迫骨折と診断。「カロナール500mg 3錠 毎食後」を内服したが、痛みの改善がみられず「ノルspanテープ5mg」を追加。

効果：貼付した翌々日には、自分でトイレに行くことが出来るようになり、介護量が大幅に軽減された。活動量が増加したことにより、全身の浮腫も軽減した。
NSR 8→2に軽減。継続中。

副作用：なし

症例 3：変形性腰椎症 94歳 女性

処方経緯：以前から「セレコックス錠100mg 2錠 朝夕食後」を服用していたが、安静時にも痛みの訴えが強く、常に湯たんぽで温めていた。痛みの為に介護者に暴言を吐く事も多く、患者と介護者のQOLが低下していた為、「ノルspanテープ5mg」を追加。2週間後にNSR 9→6に改善したが、効果不十分と判断し、「ノルspanテープ10mg」に増量。

効果：増量後は、穏やかに過ごすことができ、介護者の負担も軽減した。
NSR 8→6→3 継続中。

副作用：貼付開始後、1か月後に貼付後の強い痒みを訴えられた。「アンテベートローション」を塗布し改善。

症例 4：腰痛症 96歳 男性

処方経緯：脳梗塞後遺症により失語症と構音障害があり、意思疎通が難しいが、常に「オーオー」とうなり声をあげている為、どこかに痛みがあるのではないかと疑った。寝返りや起き上がり時に顔をしかめるため、腰痛症と判断。「セレコックス錠100mg 2錠 朝夕食後」を服用したが、うなり声に変化がなかった為、「ノルspanテープ5mg」を追加。

効果：貼付した翌日からうなり声がなくなり、言葉は出ないが笑顔で反応し、介護者とコミュニケーションが取れるようになった。夜間も良眠できるようになり、介護者の負担軽減につながった。NSR 8？→2？ 継続中

副作用：貼付開始後2、3日は食欲減退、その後は回復。貼付後に掻き篋りがみられたため、「アンテベートローション」を塗布し改善。

症例 5：腰痛症 91 歳 男性

処方経緯：以前から腰痛症により「ボルタレン SR カプセル 2C 朝夕食後」を服用していたが、痛みが強くなり「こんなに痛いなら早く死にたい」と訴え、介護者がトイレ介助で触れる事さえ拒否するようになった為、「ノルスパンテープ 5 mg」を追加。

効果：貼付した翌日から、介護拒否が無くなり、7 日後には自分でトイレに行くようになった。
NSR 9→3

副作用：貼付後の痒みの訴えがあり、「アンテベートローション」を塗布し軽減。

症例 6：腰痛症 96 歳 女性

処方経緯：急に激痛を訴えられ、痛みによる介護拒否があり、移乗、移動が困難となった。明らかな外的要因は見当たらないが、胸腰椎圧迫骨折が数カ所認められた。手持ちの「ロキソニン錠」を服用したが、全く効果がみられず、「ノルスパンテープ 5 mg」を処方してもらった。

効果：貼付した翌日には、移乗、移動に介護拒否なくなり、以前の生活に戻ることが出来た。
NSR 8?→2?に軽減。中止。

副作用：痛みが取れた 7 日後から傾眠傾向が強くなり、はさみで切り半量に減量したが、10 日目ごろから食事に 1 時間以上要したため、痛みが無くなったと判断し中止とした。

症例 7：両変形性膝関節症 96 歳 女性

処方経緯：立ち上がり時や歩行時に強い痛みの訴えがあり「セレコックス錠 100 mg 2 錠 朝夕食後」を服用していたが、効果不十分のため「ノルスパンテープ 5 mg」を追加。

効果：2 週間経過後も痛みが全く改善しなかったが、本人が増量を希望せずに中止。
NSR 5→5

副作用：なし

考察：

効果発現が早く、貼付の翌日には効果が感じられる。初回貼付の 72 時間後までブプレノルフィンの血中濃度が徐々に上昇する為、傾眠や食欲減退などの副作用に注意が必要である。

超高齢者 7 症例中、5 例が低用量の 5 mg で十分な効果が現れた。著効した 5 例とも腰痛症であり、変形性関節症に比べ、効果が高いと感じた。効果不十分な 2 例は変形性関節症であったが、用量増量により 1 例は効果が得られた為、患者が増量を拒否しなければ増量を考慮すると良いと思われる。

副作用軽減の為、胃腸が弱い患者には「ドンペリドン」や「メトクロプラミド」などを投与すると良い。皮膚の弱い患者や乾燥シーズンには、貼付後にステロイドの塗布が掻痒感回避の為に有効である。痛みの軽減と共に傾眠傾向が強くなる患者もいるので注意が必要である。

痛みが軽減すると、患者だけでなく介護者の QOL も大幅に改善される為、疼痛管理が不十分な患者のために医師に対して処方提案することは、薬剤師の重要な役割だと考える。